

## 令和4年度 甲子地区後期地域会議 開催結果

1. 日 時：令和5年2月28日(火) 18時30分～
2. 場 所：松倉地区コミュニティ消防センター
3. 出席者：地域会議構成員他 別紙のとおり（省略）  
釜石市 別紙のとおり（省略）

### 4. 質疑応答の概要

意見： 18番について、ここはゲートボール場として整備されたが、4～5年前から使われていないが町内会から苦情が来ないので、この場所は直しても使われないという考え方に変わってきた。町内会としては市に返還し、市で活用していただきたいと考えている。

ただ、東屋に関しては、洞関地区コミュニティ消防センターのグラウンドの南側に移設して欲しい。

回答： ありがとうございます。町内会の意向は分かりましたので、市の方でどのように活用していくか話し合っていきたいと思う。

質問： 3点ほど伺います。

以前の地域会議でも話したが、現場確認をする際は町内会も入れて欲しいと話をしたが行われていない。現地確認の時に町内会も一緒にその場で協議すれば、実施可否の条件等の協議を、その場で出来ると思う。現在のやり方では取り組みが遅れる。もう一つ踏み込んだ丁寧なやり方をして欲しい。

次に、地域課題とは別だが、防犯灯の電気料の関係で伺いたい。昨年、生活環境課で実施した、市内の防犯灯調査結果をお知らせしてほしい。後は被災地に設置した防犯灯の電気料が原則町内会の負担となっているが、その防犯灯と電気料が現在どうなっているか。それから、町内会が解散したところの防犯灯の電気料はどうなっているか教えていただきたい。

この話をしたのは、新しい住宅地で町内会を作らないと防犯灯が設置できないという話があるからである。他市町村では市や町が電気料を負担しているところもあるので、釜石市でも電気料を予算化してもらえないか。もし予算化できないなら、防犯灯税みたいなもので集めて、市内の防犯灯の電気料を賄うということではどうか。今後、町内会がなくなるところも出てくると思うので、そのようなことも考えていただきたい。

あともう一つは、新聞の慶弔蘭だが、釜石市は土日の場合は載ってこないが、他の市町村は載っているところもある。町内会のお悔やみを出す際に重要なので、土日の分も載せるようにして欲しい。以上3点です。

回答： 一点目の地域課題、現地確認の時に町内会も一緒に確認し協議して欲しいとのご提言ですが、まさにその通りだと思う。今後はご提言のとおり対応したい。

回答： それでは防犯灯の関係・慶弔の関係についてご説明します。

まず防犯灯調査だがまだ2割程度の回答が来ていないので、この2割の部分の確認をしている状況である。年度内には全部確認を行いたい、どうしても確認をできない場合は、これまでの電気料の状況等で確認することとする。

電気料の関係だが、確かに他自治体等である程度市が負担しているところもあるが、当市の被災地でも1/2、あるいは全額負担しているところもある。この被災地で町内会等ができた場合、徐々に町内会負担とすることを考えていたが、なかなか町内会等ができず、その所については市で負担している。お話しがあった町内会を形成しないと防犯灯を作れないことについて、防犯灯設置の考え方・あり方を整理しなければならないと思っている。

慶弔の関係だが、土日の新聞に載せるためには職員が出勤しなければならない問題がある。職員による日直等の制度がある自治体だと可能だが、当市の場合、日直等はないので、職員を土日に出勤させる必要が出てくる。現在、少しでもその辺も改善が図られるよう検討し、可能な限り対応していきたいと思う。

要望： SLの運行が終わるということで、SLを見るために大橋駅に来る人が多いが、トイレをすることで一つもないため、その辺で用を足す人がいて困っている。昔の仙人インフォメーションセンターの場所に一時的でもいいからトイレを設置してほしい。

回答： 大橋地区の皆さんにはご迷惑をおかけしている。抜本的なトイレの設置というのは無理であるが、現在の予算の中でトイレのレンタルができるかなどの対応できるか考えたい。現実的なところで、検討させていただき、そのうえで会長さまには結果をお伝えするので猶予をいただきたい。

#### ○市長統括

皆さん、いろんなご意見をいただきありがとうございます。もっとご意見があると思いましたが、少し少なかった気がします。

SLのお話がありましたが、SL運行は、今年が最後となりました。様々な方が来られると思いますが、釜石市としても、何とか感謝の気持ちを込めながら、この最後の運行に協力していきたいと思っておりますので、地域の皆さんにもご協力お願いしたいと思う。トイレについては担当の方で考えると思うが、JR釜石線自体の乗客が減少しており、三鉄も減少している。立派な道路ができると、今度は鉄道の乗客が減少し大変だが、鉄道も残していかなければならない。これから市でも対策をとっていききたいと思うが、とりあえずはSL運行への感謝の気持ちを伝えながら、JR釜石線を継続、維持していくための協力体制を作っていきたいと思っているので、今後も地域の皆様の協力をよろしくお願いしたいと思っております。

それから、防犯灯の話だが、街路灯は市が作る。防犯灯は町内会の皆さんに負担してもらうという制度でやってきた。被災地区は、町内会がなかったことから、市で設置し町内会が運営できるようになっ

ならば負担していただくということで、今、補助制度を作りながら進めている。町内会は任意団体であり、地域の皆さんが自主的に作る団体であることから、町内会を作っても作らなくてもいいわけです。ただ、地域の皆さんが力を合わせて、コミュニティを作るというのは、日本の原点であり、綿々と今日まで町内会という形で伝わってきている。

私の説で大学の先生だと別なこと言うかもしれないが、昔からそこに住む人達が地域の課題を見たり助け合いながら、結びつき、今日がある。ですから町内会がすごく大事である。一生懸命町内会を作り、活動していることは、地域にとってかけがえのないものである。町内会を大事にしていきたいと思う。ただ、町内会を作っていないところに無理矢理行政が入って作るということは難しい。あるところとないところでは、いろいろ差が出てくる。公平にするためにはどうしたらいいか考えていかなければならない。自治体によっては、町内会を市と住民と一緒に作るという条例を作っているところもある。そうすれば行政もお金を出すことも可能になってくるが、町内会は任意団体なので市からお金を出せない。今、応援センターがそのような役目を果たしているが、もっと町内会単位で行政が関わるといった方法もある。

ただ、それに見合う財源がなかなか無く、それが出来かねているので、地域のことは地域の皆さんに何とかしていただくことを進めている。だんだん人口が減少してきて、防犯だけではなくて、様々な問題が大変課題になっている。先ほど、皆様からお金を集め電気代に充ててはどうかとの話があったが、すごく良い話だと思います。例えば、年末のチャリティーショーとかいろいろあるが、その時に、防犯灯のためにチケットを買い、その売り上げを財源にするという手もある。

先ほどお話を聞いていて思ったのですが、いずれ町内会の方々が負担するということはとんでもない。これは何とか運営していかなければならないと今強く感じたところです。

お悔みの話ですが、新聞にすぐ出せる役所と釜石同様、遅れて出すところが半々ぐらいだと思います。これも早く出すことについて以前から問題になっていた。今後、何とか改善できるようにしていきたいと思います。

地域課題についてですが、課題の立派な資料はあっても、さっぱり改修が進まずうんざりしている方もいると思います。

10数年前に全国ですぐやる課というのが流行った。実は、応援センターは地域課題をすぐに解決しようという考えの一環だった。しかし、お金の問題もあり時間がかかってしまう。

このことは、役所の体制にも問題があると思う。地域にどのような課題があるか分かっており、大体のものはすぐに解決方法の結論が出るはずですが。ただ、予算が必要だったり、或いは大規模な工事が必要だったり、地域の皆様にそれなりの説明や時間が必要であり、これが市内全域となると簡単にお応えできずに今このようになってしまっている。いずれ今後も、忌憚のないご意見を頂き、その都度改善しながら対応していきたいと思っている。

それから、甲子地域にはずっと指摘されている農業用水路の悪臭問題がある。東日本大震災以降、多くの住宅が宅地の造成もままならないままに甲子に建てられ、その結果、生活排水が従来のまま農業用水路に流されている。この農業用水路が今使われなくなり、水の流れが滞っているのが原因であり、これを改善しようと現在対策を進めている。まだ残っている所もあるが、農業用水路の改善をしながら、子住まいの方々が安全、安心に暮らせるよう、農業用水路の改善とあわせて、適宜パトロールしながら点検をしていきたいと思っています。

冒頭申し上げましたが、現在の人口が3万700人ぐらいですが、年間約700人亡くなっていて、出生数や転出者の人数を差し引きすると、亡くなった方の分がそのまま人口減につながっているのが釜石の

状況である。

このことから、今年度中に2万人台になる見込みであることから、歯止めをかけるためだけでなく、地元の地域経済を維持するためにも、外国の方々や専門学校誘致といった、少しでも人口を増やせるような政策を進めている。

だんだんと高齢者の方が増加しており、人生100歳時代となっており、80歳、90歳の方々が一人で一生懸命頑張っている独居老人世帯が増えている。その後その方々は老人ホームに入ったり、お亡くなりになり、市内に誰も相続しない空き家が1000件ほどあり、毎年100件ずつ増えている。空き家については釜石だけではなく全国的な傾向で、現在、国を挙げて空き家対策に力を入れているが、なかなか難しい問題です。

これは何が言いたいかというと、高齢者の方が安心して暮らしていくためには、どうしても地域の皆さんの協力が必要だということを強調させていただきたいと思います。

改めて、先ほどの町内会の話もありましたが、地域の皆様の雰囲気づくりに、我々も協力しながら頑張りたいと思います。

一人で生活するのが大変な方には、病院や買い物がしやすい場所に住めることも必要になってくると思っていて、今後空いてくる可能性がある復興住宅に住んでいただくといったような制度を作っていかなければならないと思います。

甲子地区の大橋や大松地区は、非常に厳しい状況であることは重々承知しておりますが、何とか皆様の方で頑張ってくださいながら、我々が頑張って早く解決できるような街を作っていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくごお願い申し上げまして、統括に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。